

2012年4月2日

2012年度新入社員に対する挨拶（要旨）

社長 十倉 雅和

2012年は現中期経営計画の最終年であり、目標達成に向けて成果を収穫するとともに、次なる飛躍のための次期中計を策定する年である。現在の当社を取り巻く環境は非常に厳しいが、不採算事業の整理・撤収、徹底したコスト合理化、為替相場変動の影響の緩和策など、短期的な業績改善策を引き続き全力で実施するとともに、中期経営計画の基本的な取組みを着実に進め、次の飛躍に繋げていかなければならない。これらの取組みを通じ、経営基盤・事業基盤をさらに強化・拡大させ、世界の化学産業におけるリーディングカンパニーになることを目指したい。

当社の一員となられた新入社員の皆さんには、3つのことを望みたい。

①「社会から信頼される人になる」こと

企業存続の前提は、社会から信頼されることにある。300年以上の歴史を有する住友の事業精神の基本は、「信用を重んじ確実を旨とする」ことである。これは、顧客をはじめとする関係先の信頼、社会の信頼に応えることを最も大切にするということだ。コンプライアンスを徹底し、社会の信頼に応え、正直かつ誠実に行動するとともに、CSRへの高い意識を持って仕事に取り組んでいただきたい。

②「グローバルな視野を持ち、自らをグローバルな人材に昇華させる」こと

事業のグローバル化により、海外で活躍する機会や、異なる文化・価値観を持つ人々と共に仕事をする機会が従来以上に広がっている。仕事を通して世界中の人々と交流を深め、異なる考え方や文化を持つ人々と互いに理解しあう姿勢を持ち続けていただきたい。そして、コミュニケーションを充実させ、共通の目的意識を持ち、切磋琢磨する中で、一人ひとりが住友化学グループの発展を支えるグローバル人材として大きく成長することを期待している。

③「志を高く持ち、常に学ぶ努力を続ける」こと

当社の使命は、コーポレートスローガンである「豊かな明日を支える 創造的ハイブリッド・ケミストリー」に表されるように、新しい価値を創造し、人類社会の発展に貢献していくこと。これを実現するためには、社員各人の強い意志や実行力、そして志を高く持ち常に学ぶことでその道のプロを目指すというプロフェッショナルリズム、常日頃から理屈よりも実用・実践を重視するプラグマティズムが大切だ。仕事を通じて社会に貢献し、それぞれが自己実現を果たしていくために、常に挑戦を続け、学び、自分を磨いていくことを心がけていただきたい。

組織として成果を挙げていくには、一人一人が規律ある共同体意識を持ち、その一員として何を行うことが目的に適うのかを真摯に考え行動することが大切である。そのために、まずはチームワークの強化から始めてほしい。その最初の実践として、皆さんは今後も「同期」として、互いに励まし、連携をとり、研鑽しあう良き仲間であっていただきたい。

以上